

電友会 会員の皆さんへ

ホームページ <http://www.denyuhon.jimusho.jp/>

平成 28 年度 / 12 月号

発行者 電友会本部
東京都新宿区西新宿 3-19-2
NTT 東日本本社ビル内
TEL (03) 5359-6969
発行責任者 電友会本部常任理事
事務局長 白川 英俊

平成 28 年度 ボランティア活動賞・活動功労賞表彰式が 11 月 25 日（金）挙行されました

熊本地震募金活動の御礼

熊本地震により被災された皆さまには、心からお見舞い申し上げます。
全国の会員の皆さんに呼びかけお見舞金として募金活動をはじめ協力をいただいたところ、多くの募金が集まり、改めて当会の絆の強さを実感いたしました。
ここに深い感謝の気持ちと御礼を申し上げます。
なお、お見舞金は、被災された皆さまに九州地方本部を通じてお届けいたします。
* * *
熊本地震の被災者に対し、多くの会員の皆さまから、心温まるお見舞金をいただき厚く御礼申し上げます。
電友会九州地方本部

電友会本部



NTT 栗山取締役新ビジネス推進室長兼 2020 準備担当のお祝いの言葉



受賞者代表 四国地方本部 山本勇さんの謝辞



NTT 三浦取締役会長の
お祝いの言葉



NTT 牧内総務部門部長の
お祝いの言葉



電友会 鈴木会長挨拶

ごあいさつ

ボランティア活動は電友会の最も重要な柱の一つです。

今年も全国各地で他の模範となる立派なボランティア活動をされ、大きな成果をあげられた方々をお迎えし表彰式ができますことに格別の思いをいたしております。電友会は主活動として会員相互の親交、各種のサークル・文化活動に加えて、ボランティア活動に重点を置いてきました。これらの活動は個人として熱心に取り組まれる方がおられる一方で、グループや組織として取り組むことにより大きな結果と充実感を得ておられる方もいらっしゃいます。そのためにはリーダーを含む構成員全員のボランティア精神の発揮が重要な力になります。今回表彰される皆様はまさにその先頭に立ってこられた方々です。心から感謝申し上げます。

活動の領域は広がり深くなってきました。

ボランティア活動は少しずつ時代とともに変わっていき、担う人々の意識・価値観・生活条件・社会的ニーズなどは長い間には気づかれずに変化していることがあります。それだけに新しい発想での施策を追及することが活力ある電友会のためには必要です。沖縄のクワンソウに始まり、信越・四国・北陸で展開された「全国お国自慢」北海道のクワンソウに始まり、東海の似顔絵から多くの特産物による「心の交流会」、関西はじめ多くの地方の「女性の会」の開催など 1 年前には想像できませんでした。「男の QOL」に発する「男の料理教室」は本社・北陸・四国で開かれ、健康講座へと広がり方をうかがう様子です。

未来に向けて一億総活躍はボランティアから始まります。

これらの新しい活動はすべて各地の会員が創意工夫を凝らして発案し実行につなげたものばかりです。電友会の会員の意気込みを痛感いたします。組織の力強さに感銘を受けています。最近の世相では一億総活躍がうたわれ、人口減少社会に対処するには女性も高齢者も働けるようにするのが政策的目標になっています。このことは大変結構な方針ではありますが、各人が生きがいを感じつつ世の中に貢献するのは、必ずしも職に就いて給料を得ることからだけではなく、電友会が築きあげてきたプロジェクトを次々に打ち出しているボランティア活動こそ「総活躍」の真髄があり、そこから始まると信じています。社会の一員として長寿の恵みを世の中に還元できれば幸いです。社会の一員として長寿

電友会であるからこそできることがあります。

電友会会員が共有する財産のなかに社会的信用があり、高い使命を持った組織で長年働き、社会に貢献してきました。それぞれの地域の要望に応え続けることは一度もありませんでした。このような実績から生じた社会的評価と信用は消えることなく、OB となった後も社会から期待を向けられていることを会員は肌で感じています。それに応えるために、電友会ならではのボランティア精神を生かす世の発展開拓に力を合わせて努力していきます。一例として、より広く世の中の要望と会員の要望とを結び付ける場としての NPO の検討をしております。

電友会の強みは自ら行動を起こすことにあります。来年もまた新しいご報告ができることを楽しみにしております。

平成 28 年 11 月 25 日

電友会
会長 鈴木 正 誠



第 26 回電友会ボランティア活動賞表彰

成果発表



「尺八」中国地方本部徳田剛造さん



「草笛」北陸地方本部林 芳樹さん

表彰式風景

